

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月6日

【評価実施概要】

事業所番号	272300773		
法人名	有限会社メープルの里		
事業所名	グループホームメープルの里なみおか		
所在地 (電話番号)	〒038-1344 青森県青森市浪岡吉野田字木戸口52-12 (電話) 0172-69-2228		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 11月 17日	評価確定日	平成 20年 2月 6日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 5月 14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木造2階建て 造り		
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	冬季3,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	183 円	昼食 250 円
	夕食	300 円	おやつ 円
または1日当たり 700円			

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 81.9 歳	最低	66 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青森市立浪岡病院・ときわ会病院・赤川斉藤歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の以前住んでいた地域との調和を入所後も残存していこうとする姿勢が見られた。利用者のかかりつけ医を尊重して事業所から遠い弘前市内や平川市といった地域にまで、通院に付き添う等、「利用者本位」の立場が、全職員に浸透している。また、利用者の社会的役割や生きがいにも配慮し、リハビリ体操などを定期的に行いながら、同系列の温泉施設を利用し、利用者の心身の向上・維持に、事業所一丸となって取り組んでいる。
朝礼時に理念を唱和し、職員間の理念徹底も図られており、職員間のチームワークや統制が取れた事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善課題となった運営理念の啓発は、改善されている。サービス向上へ意欲的に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価、外部評価について事業所内研修で勉強し、職員全員が意義を理解している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>サービス面では運営推進会議の内容がかなり反映されている。しかし、災害・緊急時の迅速な対応について意見交換し、役割分担や一覧表などを作成しておくことが期待される。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>面会時に話すほか、広報や手紙にて近況を報告している。緊急時には必ず電話して報告するようにしている。また出納帳のコピーを利用請求送付時に送っている。運営推進会議には家族も参加してもらっている。苦情箱を設置し、いつでも意見が出せるよう工夫がされており、苦情が出たときは、運営推進会議で報告し、意見をもらっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入しているが、自治会との災害・緊急時の役割分担や、自治会の活動への参加等といった連携が望まれる。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私らしく、ゆったり、楽しく暮らしたい。」という理念を中心に地域との関係を大切に、地域密着型サービスとしての役割を考えながらつくられている理念である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室、ホール、玄関等に掲示されている。また毎朝申し送りの後に職員で理念を唱和し、理念を共有しながら日々のケアの質、向上に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホーム周辺は民家があり、近くの小学校からは発表会の招待があり見学に出かけたり、ホームで必要な物品を借りに行ったりする等の交流がみられる。町内会にも入っているが、回覧板等はきておらず、また町内会活動に施設から参加者を出していない。		町内会や小学校とは交流があるが、より密接で双方向的な活動が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価について事業所内研修で勉強し、職員全員が意義を理解している。また外部評価の結果を職員で話し合い、改善できる事はすぐ実施している。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に定期開催されており、家族、町会長、市町村の職員、民生委員が参加し意見をだしあったり、相談や苦情等に対して皆で検討したりしている。また会議録についてはユニットの入り口に置いていつでも見られるようになっている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	旧浪岡町内のケアマネジャーの会議や旧浪岡町の会合にしか出席していないため、青森市との交流は薄い。		旧浪岡町が合併後の青森市内との交流が薄く、例えば青森市社協の研修に参加するなど、合併後の青森市との連携が望まれる。また、管理者だけではなく、末端の職員も市との連携を強める機会を設けるといっそう地域密着型の趣旨に近いものになるのではないだろうか。
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員は研修を受け、制度について理解している。		全職員が学べるように事業所内の研修会の開催や、必要時活用できるように資料作成などの取り組みに期待したい。
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待について全職員が理解している。普段から職員の言動に注意を払っており、不適切な言動にはその都度注意しあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族にわかりやすく丁寧に説明し、納得してもらい同意を得ている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に話すほか、広報や手紙にて近況を報告している。緊急時には必ず電話して報告するようにしている。また出納帳の確認をしてもらっており、出納帳のコピーを利用料請求送付時に送っている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に家族も参加してもらっている。苦情箱を設置しいつでも意見が出せるよう工夫がされており、苦情が出たときは、運営推進会議で報告し、意見をもらっている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なるべく利用者の担当職員を代えないように配慮し、同系列の事業所間での異動が無いように工夫がなされているが、春先に職員の入退職が激しかった。</p>		<p>職員の退職を最小限にするため、職員間のコミュニケーションをとるなどの予防策を講じることに期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修に参加できるよう、勤務調整できる体制にしている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は旧浪岡町内のケアマネジャーの会議に参加しており、同業他社との情報交換をしている。		近隣のグループホームとの交流は図られていないので、今後は積極的に交流を図れるよう取り組んで行く事に期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にグループホームを見ていただいたり、来てもらったりして本人の不安を解消している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の好きなこと、やっていた事を尊重しそれを職員が教わりながら一緒にやり、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の言動や会話から意向を引き出したり、真意を汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人には普段の会話から、家族には面会時に要望や意向を確認し、それを介護計画に反映させている。		事業所独自のアセスメント様式を作成しているので、それを今後用いてアセスメントし介護計画に反映できるようにすることが望まれる。
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	初回は3ヶ月、状態が安定したら6ヶ月に1回見直しを行い、状態が変化したらその都度見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	弘前市内にある同系列の温泉施設に無料で入浴出来るなどの多機能的な面や、デイサービスのように利用者になりハビリ体操を取り入れるなどのソフト面で多機能的な試みがなされている。		ハード面(建物)では地域密着型の趣旨である多機能性が検討されておらず、敷地的キャパシティの問題や経営者の考えもあり、一定の限界があるも、多機能性への取り組みを経営者へと働きかけをするなどの努力を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望を聞き入れ、なるべくは今まで本人が通っていた病院へ行けるよう支援されている。また利用者のかかりつけ医が遠方でも連れて行っている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期の対応については現段階では行っていない。</p>		<p>重度化や終末期について明確な方針が決まっておらず、書類を作成する等して方針を確立させるなど、一度事業所内で話し合いを行う事が望まれる。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>重要事項説明書の中にプライバシーの項目があり、十分に説明している。職員も相手の気持ちを考えた言葉掛けや対応をするようにしている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の気持ちを最優先しその日の気分、体調を把握しながら支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>嗜好を確認して、嫌いな物には代替品を提供できるようにしている。また入居者には職員と一緒に野菜を切ったり食器を拭いてもらったりしている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>希望のある方には可能な限り対応している。やむを得ない時は、足浴等で対応している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>畑作業、食事の準備、後片付け、洗濯たたみ等それぞれ役割をもってもらい、意欲をもって生活できるように支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>本人の希望に沿って日光浴や園庭の散歩、一緒に買い物に出かけたりしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施しており身体拘束について全職員が把握している。また身体拘束は行っていない。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠し、日中は見守り、センサーで対応している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回(夜間、日中想定)避難訓練を実施している。消防団の協力もある。		近隣の人の参加がされておらず、今後は運営推進会議の場で働きかけ協力を依頼するなどして取り組んでいく事に期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士にメニューの評価、指導をしてもらっている。水分量も脱水の観察、排泄量の観察などを行い水分を多めにとるなど工夫されている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、速乾性の消毒液が玄関、手洗い場に準備されている。インフルエンザなど流行する時期には、対応について呼びかけをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節に合わせた掲示物やテーブルに花を飾るなど、四季を感じられるように工夫している。またソファや畳のスペースがありくつろげる空間もある。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた家具等の持ち込みができるようになっている。		

 は、重点項目。